

平成29年度第2回政策会議

日時 平成29年10月30日（月）10:45～11:00

会場 市長会議室

参集者 工藤市長 中林副市長 片岡副市長 川越企業局長 辻教育長
種田企画部長 小野総務部長 入江財務部長

2 市民スケート場の施設整備について

◎対応 小林生涯学習部長 佐藤生涯学習部次長 鶴喰生涯学習部次長
阿部管理課長 町谷スポーツ振興課長

◆ 議題の趣旨 ◆

市民スケート場の施設整備について協議しました。

◆ 協議の結果 ◆

原案のとおり、本件の内容は了承されました。

◆ おもな発言 ◆

■小林生涯学習部長

現在の市民スケート場は、平成2年度に競輪場内に仮設パイピング式スケートリンクとして開設したもので、車両競技公益資金記念財団から3億円の助成を受け、市が整備費や運営費の不足分を補助をすることとして、函館市文化・スポーツ振興財団が主体となり整備したものである。平成28年度の入場者数は約3万2,000人、経費については約7,000万円となっている。

現在の施設には、開設当初から使用している冷凍機が6台あるが、老朽化のため処理能力が著しく低下している。また、使用しているフロン冷媒は、平成32年以降、生産および消費の全廃を目標としていることから、冷凍機を将来的に継続して利用することは難しく、また、ボイラーにも不具合が生じてきていることから、現行設備でのスケート場の開設は、平成30年度までと見込んでいる。その後、冷凍機の更新等が必要であるが、平成2年度に活用した車両競技公益資金記念財団の助成制度は既に廃止されており、函館市文化・スポーツ振興財団が自主財源で施設改修を行うことは困難な状況である。道南唯一のスケート場として冬季スポーツ活動の振興を図るため、今後においても継続して開設する必要があると考えることから、函館市教育委員会が整備主体となり、公共施設として再整備を行いたい。

仮設パイピング式は、毎年、設置撤去経費を要するため、埋設式での整備も検討した。しかし、工期が長期間にわたり、競輪開催にも支障を生じるため、仮設パイピング式により整備したいと考えている。

施設整備費については、冷却設備工事と現在の機械設備の撤去工事費用を合わせて、約7億2,000万円と見込んでいる。新たに設置するスケート場は、設置条例を制定し、公の施設として整備し、公募による指定管理者による管理・運営を考えている。ランニングコストとして、約8,000万円を見込んでいる。

工期および事業スケジュールについてだが、平成29、30年度は既存施設により開設し、平成31年度は工事のため開設せず、平成32年度に新規施設として開設しようと考えている。平成30年度当初予算において、平成30、31年度の継続費を予算要求したいと考えている。

■工藤市長

現状は、いつからいつまでの期間、スケート場を開設しているのか。

■鶴喰生涯学習部次長

12月中旬から2月中旬まで、2か月開設している。

■工藤市長

ランニングコスト8,000万円の内訳は、どうなっているのか。

■小林生涯学習部長

リンクを造るので、組立、解体で約1,000万円、光熱費と燃料費で約1,700万円かかる。そのほかに、人件費や整氷車等の経費がかかる。

■工藤市長

今後の所管はどうなるのか。

■小林生涯学習部長

教育委員会の所管となる。

■工藤市長

建設費用はやむを得ないと思うが、なるべくランニングコストの縮減を検討すべきではないか。

■種田企画部長

他に意見がないようなので、原案のとおり了承とさせていただきます。